第5話 出血性脳卒中(脳出血、くも膜下出血)

脳卒中は以下の二つに大別されます。

- ・血管が詰まって起こる ⇒「脳梗塞」
- ・血管が破れて起こる ⇒「脳出血」と「くも膜下出血」 (併せて、出血性脳卒中といいます)

これまでは「脳梗塞」について多くお話してきました。 今回は血管が破れる「出血性脳卒中」についてお話します。

①「脳出血」と「くも膜下出血」の違い、ご存知ですか?

脳出血

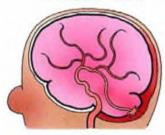
〈脳の中の出血〉

脳の中を走る細い血管がやぶれて、血液の固まり (血腫)を作る病気です。

※脳内出血と表現される場合もあります。

出血が小さい場合は、薬で治療します。 出血が大きい場合は、手術で取り除きます。





〈脳の表面の出血〉

脳の表面の太い血管にできたコブ(脳動脈瘤)が破れて、脳表に出血する病気です(第8話参照)。 脳をゴムボールに例えると、その表面にトマト ジュースを一気にブチマケたイメージです。

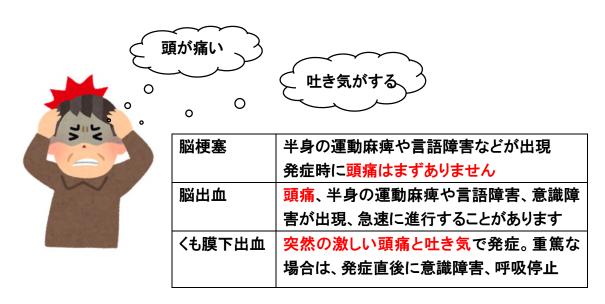
動脈瘤の破れた部位、一旦はすぐに塞がります。 しかし、数日以内に再出血が起こりやすく、それを防 ぐ目的で手術治療が行われます。

② 出血性脳卒中、発症した場合の予後は?

脳梗塞に比べて重篤な病気です。

脳出血では約50%の方で介護を要する状態となり、くも膜下出血では死亡率が約30% とも報告されています。

③ 出血性脳卒中の症状、「脳梗塞」との違いは?



4 出血性脳卒中、発症の前触れがありますか?

脳梗塞では、20~25%に前触れや警告発作があります。 しかし出血性脳卒中では、ほとんどが突然に発症します。

⑤ では出血性脳卒中、防ぐ手立ては何もないのでしょうか?

MRI 検査によって、「かくれ脳出血」や「脳動脈瘤」など、危険な要因を見つけることができます。 その意義などについては、〈第6話〉、〈第8話〉でお話させていただきます。

